

行政と企業の連携で父親の家庭教育参画を支援する～父親パワーアップ講座

平成16年12月2日、東京都教育委員会は父親の家庭教育への参画を推進する「父親パワーアップ講座」を開催しました。この講座は、企業等と協力し、普段、仕事等で地域での学習会に参加することが難しい父親層を対象とした講座のモデル事業として実施しています。今回は、東京経営者協会と企業の人事担当者のネットワーク「採用ライブフォーラム」の協力を得て実施しました。



ここ数年の社会的問題、若者のモラトリアム傾向やフリーター志向の広がり、企業にとってもたいへん悩ましい課題です。そこで子どもの勤労観や職業観をはぐくみ、就業意識を高めるために家庭での父親の役割を考えようと「若者の勤労観・職業感を育むための父親としての役割」がテーマとして設定されました。

参加者は、企業の人事担当者、行政の家庭教育事業担当者です。東京経営者協会専務理事の久保力氏の講演の後、意見交換では、「お父さんたちに参加してもらいたくて、講座等を土日に開催するが人が集まらない」、「平日、仕事帰りに寄れる講座なら行きやすい」、「参加対象のポイントを絞って講座を企画するべき」などの意見があげられました。家庭教育支援をテーマに、企業と行政の担当者が同じテーブルについて意見交換を行う機会などなかなかないので、両者にとっては、それぞれの苦労が垣間見られるなど、新鮮な出会いの場となりました。

企業と行政が連携して、職業人としての顔も持つ父親が家庭教育に参画していくことを支援する事業が、今後は各地域で展開されるように期待しています。

大盛況の「米長邦雄の親子ふれあい将棋教室」

穏やかな晩秋の平成16年11月23日午後、東京都庁を会場に、今回で10回目となる「米長邦雄の親子ふれあい将棋教室」が開催されました。当日は、都内の5歳から18歳までの子どもと保護者、計300名を越える親子の参加がありました。

米長邦雄永世棋聖（東京都教育委員会委員）による将棋の魅力と親子のふれあいの大切さについての講話の後、米長永世棋聖、中村修八段をはじめとする11名のプロ棋士の皆様のご指導のもと、終了時間いっぱいまで親子同士やプロ棋士との指導対局など、熱戦が繰り広げられました。

この将棋教室は、社団法人日本将棋連盟と御蔵島（みくらじま）村の御協力によって開催していますが、今回は都立日比谷高等学校棋道部の有志13名が、ボランティアとして、受付や対局指導等の運営を支えてくれました。



さよなら府中青年の家

府中青年の家は宿泊しながらサークル・団体の研修や交流など様々な活動ができる社会教育施設として昭和47(1972)年に開設されました。以来、多くの人々に利用されてきましたが、平成17年3月31日をもって閉所となります（閉所等の準備のため、施設の利用は2月6日で終了して

おります）。東京都青年の家は、昭和35年に八王子に開所されて以来、延べ225万人に利用されてきました。府中青年の家の閉所をもって、都内7箇所のすべての青年の家が役割を終え閉所します。長い間、ご利用いただきありがとうございました。



東京都は、青年の家を再編・整備しユースプラザ整備等事業として新たな青少年社会教育施設の設置を進めています。青少年の自立と社会性の発達と、都民の生涯学習を支援するための施設として、すでに、江東区夢の島に「東京スポーツ文化館」（愛称：BumBぶんぶ）がオープンしています。

さらに、平成17年4月1日には八王子市川町に「高尾の森わくわくビレッジ」がオープンします。引き続きご利用くださるよう御案内申し上げます。

東京スポーツ文化館
<http://www.ys-tokyobay.co.jp/>

高尾の森わくわくビレッジ
<http://www.wakuwaku-village.com/>

